

平成29年九州北部豪雨 歯科支援報告会

～徹底検証:熊本地震の教訓は、活かされたのか?～

<後半>

平成30年2月25日(日)15:00～17:00

会場:熊本県歯科医師会館

福岡県歯科医師会会員 太田 秀人

droota@grace.ocn.ne.jp

主催: 日本災害時公衆衛生歯科研究会

共催: (一社)熊本県歯科医師会, 女川歯科保健チーム

<今回の報告の視点>

- 1、福岡県歯はどう対応したのか?
- 2、その際に、熊本地震での九地連幹事県としての経験は活かされたのか?
- 3、熊本県歯から報告された課題を教訓として活かされたのか?
- 4、九地連メール協議会から報告された課題を教訓として活かされたのか?

1、福岡県歯としての対応

<福岡県歯>

- ・平成28年6月24日に新執行部誕生
- ・7月8日(土)に 県歯臨時代議員会開催予定

<福岡県衛>

- ・新執行部誕生から数か月

<朝倉歯>

- ・平成28年6月17日に新執行部誕生

検証：発災からの福岡県歯の動き

- 7月6日(木) 県歯から郡市区会へ、被害状況を確認
人的被害:なし
物的被害:あり 計14件
診療所床上浸水 3件、断水 3件、落雷 4件
+ 福岡県歯科保険医協会へ、被害状況確認と支援の事前調整
- 7月7日(金) 朝倉歯会へ、支援物資発送 **+被災地介護施設等リスト入手**
- 7月8日(土) 県歯臨時代議員会終了後、
県歯会館にて、朝倉歯会長と協議し、先遣隊の派遣を決定
- 7月9日(日) 先遣隊派遣(朝倉歯会長+県歯3名(医療管理部・地域医療保健
介護部・太田)) **+介護施設への電話による状況確認**
- 7月10日(月) 福岡県歯災害対策本部設置 **+添田町担当理事への状況確認**
- 7月11日(火) 支援物資発送 **+日歯災害歯科コーディネーター、県衛との情報共有**
+ 県庁健康増進課へ、派遣の流れについての事前調整
- 7月12日(水) 身元確認作業(県歯2名ずつ) * 12日(水)~13日(木)まで
+ 県庁健康増進課から医療指導課への事前調整
筑紫歯に先遣隊派遣説明会と支援準備の事前調整

検証：発災からの福岡県歯の動き

7月13日(木) 歯科支援協議会⇒支援協力依頼、支援決定と全体ML作成

7月14日(金)～17日(月・祝) アセスメント隊リーダーおよび福岡県歯災害科コーディネーターを派遣

＋ 正式に県歯事務局長より、県庁医療指導課に、歯科医師会として支援準備完了と連絡

7月14日(金)～15日(土) アセスメント隊を派遣(Dr.1名、DH4名)

7月16日(日)～19日(水) 本隊派遣

九州大学(Dr.2名、DH2名)＋県歯(Dr.2名)＋県衛(DH2名)

＋ 県行政および朝倉行政に、太田などからの報告を、文書にて報告。その他には物品調整など

7月18日(火) 支援物資持参

7月19日(水)～23日(日) 本隊派遣

福岡歯科大学(Dr.2名、DH2名)＋県歯(Dr.1名)＋県衛(DH2名)

＋ 保健師・栄養士との調整(16, 17日)

福岡県歯科医師会発行：歯界時報より引用・追加

検証：発災からの福岡県歯の動き

7月20日(木) 朝倉歯総会にて、県歯としての支援方針等について説明
⇒朝倉歯会員による避難所巡回を協議

7月21日(金) 福岡県歯科保険医協会にて、これまでの経過報告と朝倉歯会員による支援計画を説明

21日以後は、福岡県庁健康増進課に、県歯・大学の撤退予定とその後の県衛と朝倉歯による支援計画を順次報告

7月22日(土) 朝倉市・東峰村避難所等トリアージを再作成

7月23日(日)～26日(水) 本隊派遣

九州歯科大学(Dr.2名、DH2名)＋県歯(Dr.2名)＋県衛(DH2名)

7月24日(月) 朝倉歯すべての会員診療所が復旧

<最終的な福岡県・朝倉市・東峰村行政との協議内容>

・県歯撤退後、被災地は朝倉歯および福岡県衛でフォロー

・今後も二次災害などに備え、県歯として支援体制を継続する

7月28日(金) 朝倉歯幹部会議に同席(東峰村会員と、在宅等訪問歯科診療体制の調整) ＋東峰村協会会員との調整

8月6日(日) 県歯会長・専務が現地入り 支援終了

福岡県歯科医師会発行：歯界時報より引用・追加

2、九地連幹事県としての経験

「熊本地震での九地連幹事県としての対応」

- ・日歯からの派遣調整依頼を受け、九地連対応
- ・災害対策本部設置
- ・九州各県歯・県衛＋山口県歯＋福岡三大学を派遣調整
- ・支援活動における課題等をメーリングリストにて事後協議



＜福岡県歯＞

- ・平成28年6月24日に新執行部誕生
- ・7月8日(土)に県歯臨時代議員会開催予定

検証：歯科医師会の支援体制強化

①県歯としての人材育成の体制

県歯主催の実習式研修会開催

②県歯としての組織作り

担当は地域医療介護部。郡市区との連携

③歯科職内の連携体制

県歯科衛生士会、大学、保険医協会など

④行政や多職種との連携体制

「避難所感染症対策」としての口腔ケアの位置づけ

3、熊本県歯報告からの課題

- 1) 行政の混乱による情報不足
- 2) 歯科コーディネーターの役割
- 3) 県行政歯科医療職の災害時の配置や特命
- 4) 県外派遣チームの宿泊施設確保
- 5) 職種間の連携不足
- 6) 医療と保健の同時進行

牛島隆:熊本地震における歯科支援活動～県歯コーディネーターの立場から～
平成28年度 日歯災害歯科コーディネーター研修会 配布資料より

3-1) 行政の混乱による情報不足

<対応策>

- 災害支援メーリングリストの運用
- 各自治体災害対策本部会議への出席を義務化
- 多職種連携(保健師、JMAT、薬剤師、DPATら)強化
- 保健師との連携...地域連携室の歯科衛生士
- 自治体・保健師との連携...県歯地域医療保険介護部理事
- チーム間連携...熊本地震経験者を中心に
- 事前に支援物資支援を打診(熊本県歯と歯科業者へ)



<生じた問題点>

- 郵送した支援物資が行方不明に

3-2) 県歯災害歯科コーディネーターの役割

- 情報の収集
 - 諸会議への出席
 - 連絡報告
 - 災害対策本部対応
 - 事務局対応
 - 支援物資の配給
 - 連絡の折衝
(支援者、行政、
現場、関連団体)
 - 支援活動検討
(内容、場所、
人数、撤収)
 - 様々な問い合わせ
 - 資料作成
 - 仮設住宅での支援
-
- ・複数人分担制
 - ・現地コーディネーターとの連携体制
 - ・ガイドライン作成



事務局派遣・支援の必要性

牛島隆: 熊本地震における歯科支援活動 ~ 県歯コーディネーターの立場から ~
平成28年度 日歯災害歯科コーディネーター研修会 配布資料より改変・追加

検証: 3-2) 県歯災害歯科コーディネーターの役割における問題点

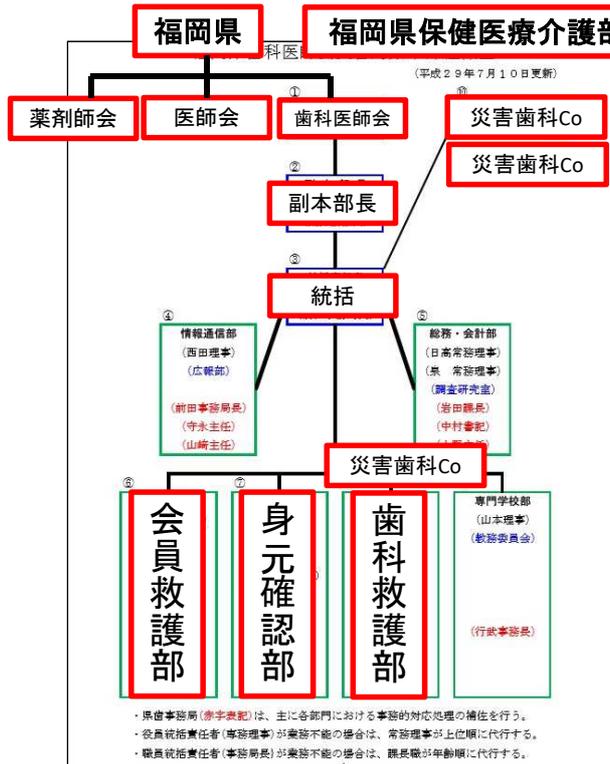
- 県歯幹部との立ち位置
- 県歯地域医療介護保険部理事との立ち位置
- 朝倉歯幹部・会員との立ち位置
- 県歯・県衛・大学メンバーとの立ち位置
- 県行政・自治体との立ち位置
- 多職種間での立ち位置

県歯内での位置づけと権限移譲を明確化



多職種間での位置づけと役割分担を明確化

参考：福岡県歯の災害歯科コーディネーター(=Co)の位置づけ



* 福岡県歯科医師会災害対策本部組織における各部門の役割について

⑩ 災害コーディネーター(の役割)

(1) 災害対策本部と日歯、その他外部関係団体との連絡・調整

(2) 他組織の災害コーディネーターとの連携構築

* 今回は、複数コーディネーター体制で対応

一社) 福岡県歯科医師会発行: 福岡県歯科医師会災害時行動計画, 平成25年2月版より改変

3-3) 県行政歯科医療職の災害時の配置や特命

1、災害時の保健活動の統括は

福岡県保健医療介護部健康増進課

保健師の健康支援活動で、口腔ケア指導も含めて実施
歯科口腔保健センター職員の現地入りはなし

2、災害時の医療活動の統括は

福岡県保健医療介護部医療指導課

* 詳細問い合わせ中

3-4) 県外派遣チームの宿泊施設確保

- 基本は、日帰り＝宿泊手配不要
- 九州歯科大学チーム(歯科医師2名、歯科衛生士2名)は、独自に甘木地区に宿泊
- 日帰りは、片道1時間半が限界か？
(特に歯科衛生士)
- 大雨、台風、強風などによる二次災害に注意

3-5) 職種間の連携不足

- 歯科医師間で発生 ⇒ 避難所への重複訪問
(熊本地震南阿蘇村でも、ノロウイルス集団感染により活動自粛中の避難所へ、他地区から歯科医師が訪問)
 - 福岡県歯～朝倉歯 支援初動・縮小・撤退
 - 福岡県歯～福岡県衛
 - 福岡県歯～福岡三大学
 - 朝倉歯～福岡県衛



行政への支援・撤退予定告知の混乱

3-6) 医療と保健の同時進行の困難性

- 保健師との早期から連携実施
- 朝倉市での保健師の調査時にレベル1用紙の使用を提案(先遣隊派遣時)⇒検討のみ?
- 各自治体の災害対策本部会議出席を義務化
朝倉市:9時、16時 / 東峰村:12時
会議の司会進行は 行政保健師
医療は 一参加者として情報共有するのみ
保健師、JMAT、薬剤師、DPATらとの連携

 保健が枠組みを作り、医療が連携

4、九地連熊本地震メール協議会

<主な協議事項一覧>

 九地連専務会議で継続審議予定

1) 発災から、現地派遣までの流れや準備について(6項目)

初動における仕組み作り、災害対応マニュアル準備、情報収集、チーム編成など

2) 現地入り後の支援活動について(8項目)

アセスメントと支援計画の立案、多職種との情報共有など

3)、支援撤退・終了について(5項目)

後続チーム・地元歯科医院・施設などへの引継ぎなど

4-1) 発災から現地派遣までの流れや準備について

- (1) 初動における仕組み作り
- (2) 災害対応マニュアルの準備
- (3) 機材・資材の準備(診療、事務手続きなど)
- (4) 情報収集
- (5) 事前および被災後の経過期間および災害ステージに応じたチーム編成の必要性
- (6) 歯科衛生士会との連携

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-1)-(1) 初動における仕組み作り (支援チームの宿泊手配も含む)

⇒「問題点」

ア、各地区ごとに派遣・支援開始時期などに差が出た

ア) 手続き上の問題 県歯⇒日歯や県行政

イ) 被災による宿泊と交通手段の問題

⇒「課題点および提案」

ア、初動ガイドラインの作成

ア) 九地連への派遣依頼、または先発隊派遣に関して

・現地Coがいなくても、被災県歯が九地連に派遣依頼

・現地Coがいなくても、九地連が先発隊を派遣 など

イ) 宿泊手配等のガイドラインの作成

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-1)-(2)災害対応マニュアルの準備

⇒「問題点」

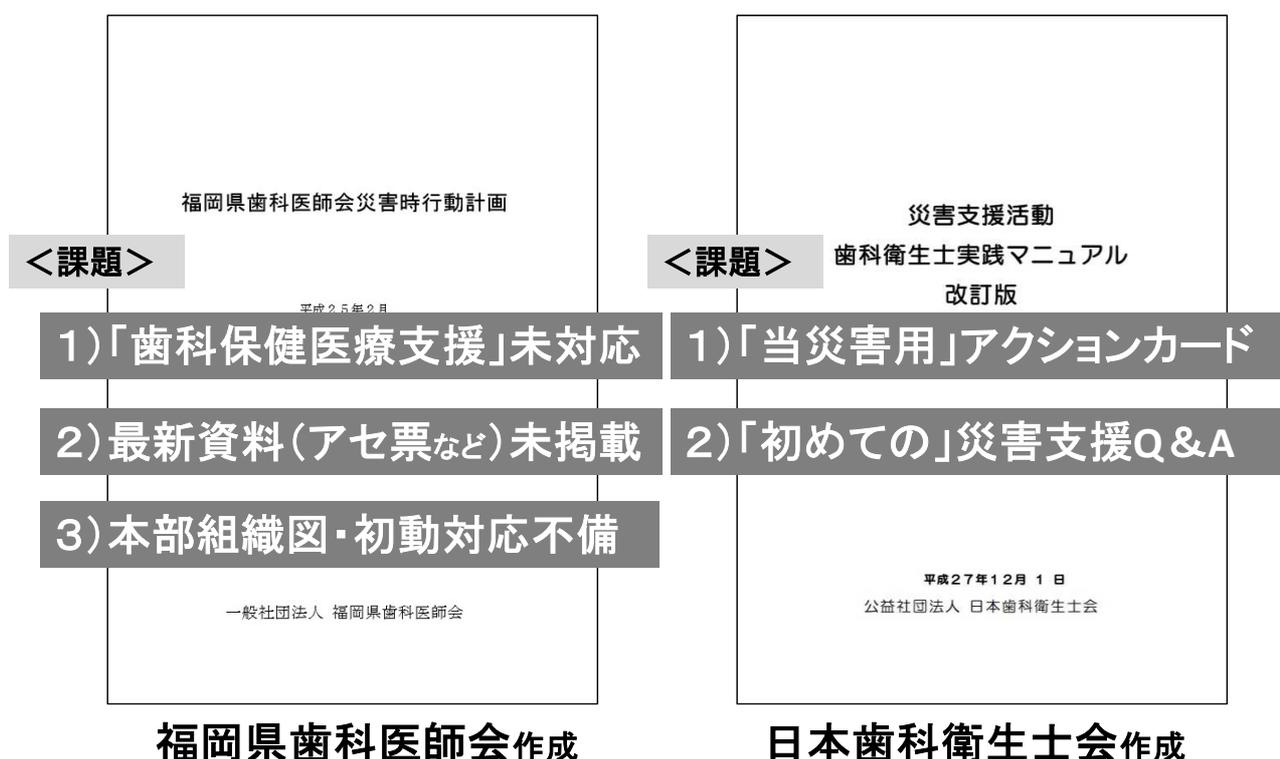
ア、各県でマニュアルの準備および内容等に差異あり

⇒「課題点および提案」

ア、自県内事案と九地連事案における、派遣調整のガイドライン策定が必要

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

災害対策マニュアルの現場運用



歯科衛生士アクションカードの考案・現場運用

平成29年7月九州北部豪雨 歯科保健医療支援アクションカード
 平成29年8月6日(日) コーディネーター 富田正博専務 090-1082-9300
 *新設市内の対象施設は日本2ヶ所、熊本県3ヶ所、東臼杵は1ヶ所

各チームに分かれて移動

10:00 避難所責任者(担当者)に挨拶(所属、名前、訪問目的の明示)
 歯科医師と会話して打ち合わせを行う
 避難所にいる方を数える
 歯科支援チームの〇〇です。お口のことで困っていることありませんか？
 痛みはないですか？お食事は取れていますか？
 「入れ歯ケースありますか？入れ歯で困っていることはありませんか？」
 ●歯肉腫瘍または腫瘍疑念ができれば行なう
 ●緊急処置(先期)・支障物の確認
 活動内容を記録(できればその場で記入)
 (レベル3 日本歯科衛生士会災害支援マニュアル P19・P23・P25)
 支援内容を避難所責任者に報告後、次の避難所へ移動

各チームに分かれて移動

15:00 担当避難所の支援終了(レポート日本に帰国)
 避難所の備計(日本歯科衛生士会災害支援マニュアル25ページ)
 原本をコピーして保健師さんに渡し、原本は「悪いインシデント」に保管する
 保健師への申し送りが必要なケースについては書いておきます。
 物品の整理整頓を行なう
 解散

17:00

*8月6日に回収する場合は物品の回収を行う

災害時歯科保健医療支援アクションカード

避難所(一般)

各チームに分かれて移動

10:00 避難所責任者(担当者)に挨拶、「避難所等責任者へ」手渡説明
 基本状況等の確認・観察
 (トイレ、衛生状態、食事支援、医療支援、近隣医療機関など)
 可能な情報収集方法でアクセス票(レベル2)を埋める
 その他の情報はメモとして記載

各チームに分かれて移動

15:00 避難所責任者(担当者)に報告
 本部に電話連絡
 連絡つかない場合、チームの判断で安全第一の臨時応急の処置をとる

17:00

*8月6日に回収する場合は物品の回収を行う

福岡県歯科衛生士会作成

*参考:日本災害時公衆衛生歯科研究会作成

チーム作りのための工夫

災害支援Q&Aの作成

初めての災害支援 Q&A

*別紙のアクションカード、災害支援活動歯科衛生士実践マニュアル(改訂版)にも目を通してください。

Q. 現地まではどのようにして行ったらよいのでしょうか？

朝 8:50 に、朝倉市の医療対策本部があるレポート日本(〒838-0068 朝倉市甘木 198-1 <http://www.city.akasaka.jp/www/contents/1297147262348/index.html>)に 8:50 に集合してください。
 車で来る場合は、上記地図を参照し、カーナビを活用してください。高速道路を利用の場合は、大分自動車道熊本インターチェンジより降りる分です。
 また現地までの道標にかかった交通費(高速代、ガソリン代)の領収書は必ず保管しておいてください。(今回は災害救助法が適用されているので、後日、清算されることがあります)

Q. どういった服装で行ったらよいのでしょうか？エプロンや名札は必要でしょうか？

活動中は、必ず、日本歯科衛生士会のベストを着用します。その下は、活動しやすい、かつ厚着の人として備わっている服装が好ましい。(白やスチールでも構いません)エプロンは不要です。名札がある方は持ってきてください。手書きの際は大きい字で職種、氏名、できれば携帯電話番号を明記します。

Q. マニュアルにはリョックと書いてありましたが、リョックを持っていません。どうしたらよいのでしょうか？

この場には、災害支援活動用リョックが便利ですが、自分が容易から使っている普通のバックでも構いません。支援活動に使用するアシメット用紙やハンダ、除菌剤スプレー、筆記用具やその他、お茶や飲み物など出し入れしやすいものが良いと思います。ウエストポーチがあれば、さらにベスト。筆記用具やペンライト、小物など出し入れしやすい便利です。

Q. これは持って来た方がいい！と、いうものはありますか？

一応、準備はしてありますが、使い慣れたハンダや筆記用具、歯ブラシなど自分専用のものがあると活動しやすいです。(記録をしたり、入れ歯ケースに氏名を書いたりします。時には即席のポスターを作成することもあります)ペンライト、懐中電灯、ジップロックも便利です。

Q. お弁当は必要でしょうか？買うところはあるでしょうか？お昼はどこで食べるのでしょうか？

ほとんどの人がコンビニで買って食べます。(昼食の領収書も保管をお願いします。)
 昼食や、コンビニのコーヒースタンドで食べたいです。活動の途程を見ながら食べることになりますので、もし持参した場合、活動中は車中待合となりますので食卓に注意してください。

Q. 1人で活動するのでしょうか？

チームを構成し、チームで活動します。ただし、自分の身で自分で守れない人は、災害現場に入るべきではありません。常に自分の身の安全の確保を最優先し、絶対に危険のない状態で活動してください。

Q. 活動中はトイレは使えますか？

巡回している避難所等でトイレをお借りすることは可能です。現在、どの避難所も水は出していますが、手洗いは入念に行い、ノロウイルス等の感染源にならないよう気を付けてください。

災害支援ビブス・Tシャツ着用



4-1)-(4)情報収集

⇒「問題点」

- ア、**現地情報収集不足・不備**
- イ、**初動の情報収集の方法が不明**

⇒「課題点および提案」

- ア、現地のニーズを的確にキャッチする体制
- イ、現地のニーズを大学に伝え、繋ぐ体制
- ウ、**現地からの必要な情報収集**
- エ、平時と有事の際の情報共有の在り方を検討
 - ア) **指示系統を確立し、必要な情報を集約する**
 - イ) 九地連内での情報の「クラウド機能」、SNSを活用

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-1)-(5)災害ステージに応じたチーム編成の必要性

⇒「問題点」

- ア、歯科支援について、**医療と保健を合わせた活動が必要**
- イ、**派遣期間**の検討が必要

⇒「課題点および提案」

- ア、「事前登録制」の災害対策チームを組織化し編成・整備
 - ア) **各県歯、各大学、各衛生士会にも協力を依頼**
 - イ) 災害関連研修会への研修を必須とする「**事前登録制**」
 - ウ) ステージ別の専門チーム編成のガイドラインの作成
- オ、先発隊は、現地調査や関係者との連携などを行う
 - ア) **先発隊には災害支援活動経験者の参加が理想**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-1)-(5) 災害ステージに応じたチーム編成の必要性

⇒「課題点および提案」

カ、チーム内の**ロジ支援担当者又は事務職の配置**

ア) 日報、名簿、活動報告など、活動終了後の入力

イ) 各県で九地連からの派遣要請時に、ロジ派遣準備
ク、派遣期間の検討

ア) 短期間でも、日程調整や情報提供体制を構築

イ) **実働チームは短期(3~4日)**、Coは1週間など

・平時からのスキルアップや仕組み作りで対応可能

ウ) **即時(2~3日)と継続(7日程度)のチーム編成**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

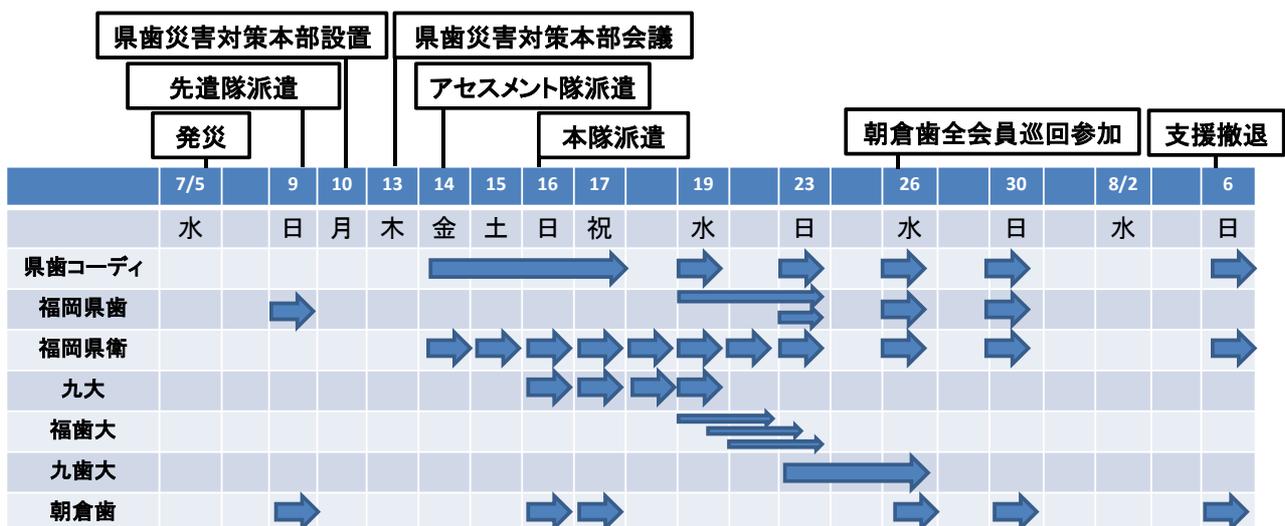
過去の災害に学び、**自県内**での災害対応

<東北からの**教訓**>

- 1、要配慮者への支援
- 2、多職種との連携
- 3、歯科職内での連携

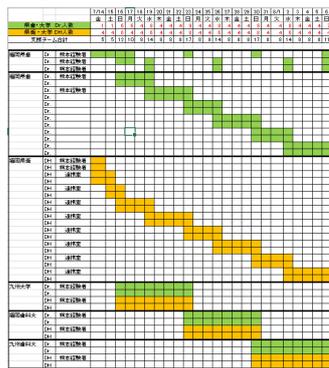
<熊本地震後の**活動方針**>

- 1、発災1週間後からの歯科支援
- 2、**多職種(特に行政)や地元との連携**
- 3、**県歯歯科コーディネーター派遣**



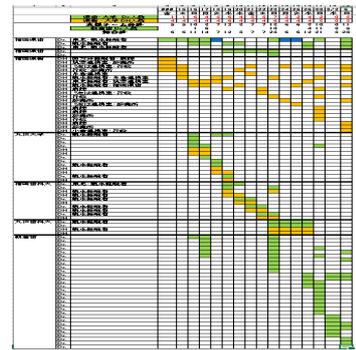
検証：災害支援活動人数

<計画>



種別	実人数	のべ人数
福岡県歯Co	3	17
福岡県歯Dr.	12	54
福岡県衛DH	18	64
大学Dr.	6	48
大学DH	6	48
合計	45	231

<結果>



種別	実人数	のべ人数
福岡県歯Co	3	15
福岡県歯Dr.	2	6
福岡県衛DH	20	36
大学Dr.	15	30
大学DH	12	26
合計	52	113
朝倉歯Dr.	30	49
総合計	82	162

福岡県歯科医師会：九州北部豪雨災害派遣に関する報告会(10/16)配布資料より

4-1)-(6) 歯科衛生士会との連携

⇒「問題点」

- ア、各県における歯科衛生士会との連携が未確立
- イ、九地連から歯科衛生士会への情報伝達不足

⇒「課題点および提案」

ア、日歯、日衛、九地連などで、連携に関する協議

- ア) 県歯コーディネーターが歯科衛生会と連携をとる
- イ) 被災県衛の事務局機能について、九地連がフォロー
- イ、協力要請体制の確立

- ・ 平時の会務事業等を通じて組織間の連携を構築
- ・ 平時から、口腔ケアや災害に関する研修を共催

青字：課題 赤字：改善できた点 赤字：挑戦したが改善できなかった点

4-2)、現地入り後の支援活動について

- (1) 現地コーディネーターからの引継ぎ
- (2) 被災状況把握
- (3) アセスメント
- (4) 支援計画の立案
- (5) 多職種との情報共有(行政、医科、派遣元など)
 - ・地域歯科医師会との連携
 - ・行政との連携
 - ・JMATとの連携
- (6) 治療後の事務書類作成
- (7) 機材の補充・滅菌消毒など

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2)-(1) 現地コーディネーターからの引継

⇒「問題点」

ア、地域により引継ぎ状況に差が生じた。

ア) 南阿蘇村では引継ぎがスムーズに行われた。

⇒「課題点および提案」

ア、**現地歯科コーディネーター育成**の必要性

イ、**JMATとの連携**の強化

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2)-(2)被災状況把握

⇒「問題点」

ア、**全避難所の情報共有**が必須(例:本田技研体育館)

ア) **多職種との情報共有**

イ) **地域歯科医師会との連携**

⇒「課題点および提案」

ア、**多職種との情報共有**と連携強化

自治体、災害対策本郡、災害対策医療本部

被災歯科医師会、福岡県歯科保険医協会

高齢者介護施設、障害者施設・・・電話確認

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2(3)アセスメント

⇒「問題点」

ア、**他団体との間の事務書類書式**が未統一

イ、**データ収集が可能にする書式**に

ウ、**記載内容**—Lv.2標準アセスメント票の記載が未統一

エ、その他—Lv.1、Lv.3や**処置記録、名簿**等も未統一

⇒「課題点および提案」

ア、他団体(行政、JMATなど)との事務書類の書式を統一

イ、**歯科専用の統一書式**の必要性

ウ、**支援活動報告に使用した書式の記入例**などを用意

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2)-(5) 多職種との情報共有(行政、医科、派遣元の歯科医師会や大学など)

○地元歯科医師会との連携

⇒「問題点」

ア、九地連支援チームと地域歯科医師会との連携不備

⇒「課題点および提案」

ア、九地連内で支援に関するガイドライン作成

ア) 地域の被災状況によって、支援の目的・手法を変更

- ・機能している→基本的にかかりつけ歯科等に戻す
+ 通院困難等の理由あり→予め対応方法を検討
- ・機能していない→地域歯科医師会と連携して活動

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2)-(6) 治療後の事務書類作成

⇒「問題点」

ア、活動記録(日報)の書式、様式が未統一

イ、報告システムも未統一

⇒「課題点および提案」

ア、活動報告の書式の統一と周知

イ、事務職の帯同の検討

エ、i-Padの導入なども検討

オ、活動記録の報告体制の検討

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-2)-(8) その他

○避難所の環境保全への対応について

⇒「問題点」

ア、**避難所の衛生環境問題**への対応方法

(**洗い場**、簡易水洗トイレの整備、清掃等の衛生状況)

⇒「課題点および提案」

ア、**避難所の衛生環境の保全**

(各避難所管理者や市町村、保健所との交渉必要)

イ、**要望方法**の検討

(現地または**県歯コーディネーター**を通す)

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)、支援撤退・終了について

(1) **派遣チームと被災県歯・県衛・行政等との情報共有**

(2) **施設・現地地元歯科医院などへの引継ぎ**

(3) **報告書の作成**

(4) **課題に対する事後検討など**

○ **多職種連携の組織的推進**

○ **災害歯科コーディネーターの育成**

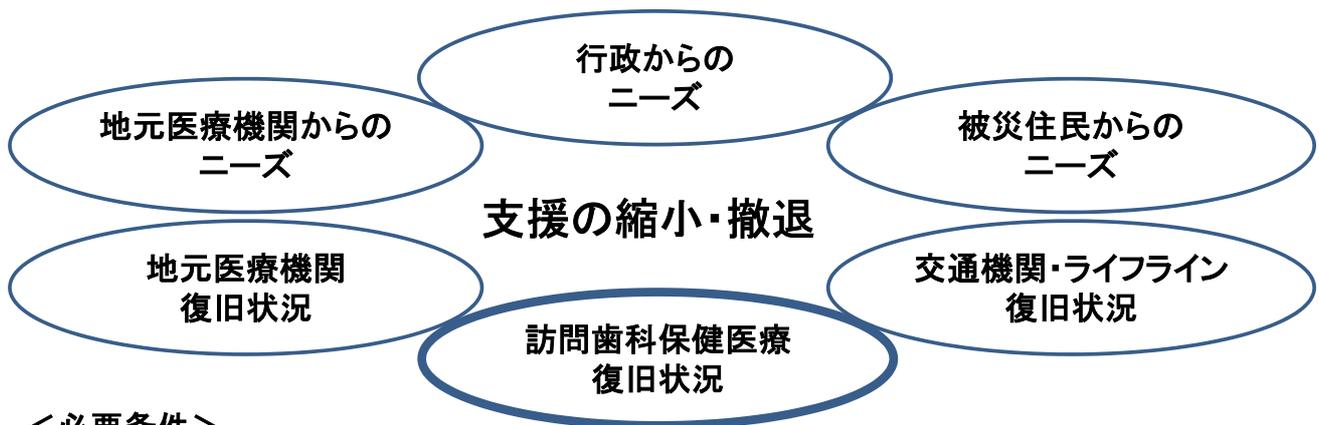
○ **支援チーム以外の現地ボランティア歯科医師・
歯科衛生士との活動調整**

○ **事務局支援の必要性**

○ **活動時のビブスの表記とその使用方法**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

支援縮小・撤退の判断は「合意」の下で



<必要条件>

- ① 現地歯科コーディネーター（もしくは歯科医師会会員）
- ② 行政での歯科担当者（＝保健師または行政歯科職）

* 対象者は、朝倉市・東峰村の避難所・在宅・仮設住宅など

太田著. 中久木康一・北原稔・安藤雄一編. 災害時の歯科保健医療対策. 一世出版より改変

4-3)-(1)派遣チームと被災県歯・県衛・行政等との情報共有

⇒「問題点」

- ア、支援撤退時の、現地情報・活動記録などの提出先
- イ、支援チームの引継ぎ方法
- ウ、派遣終了後の報告手続きや報告先

⇒「課題点および提案」

- ア、引継ぎ業務内容や方法の統一、ガイドライン作成
- イ、支援チームと被災県歯・県衛との共有
 - イ) 終了まで、派遣チーム間で確実に引継ぐ
 - ウ) 災害対策本部や他の支援チームへ公開

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)-(2) 現地地元歯科医院・施設などへの引継ぎ

⇒「問題点」

ア、支援撤退時、要支援者を個別に地元歯科医療関係者等に引き継ぐ方法

⇒「課題点および提案」

ア、支援撤退時に要支援者を個別に再アセスメントする
イ、地元歯科関係者、施設職員等と情報共有するツールが必要

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)-(5) 課題に対する事後検討など

○災害歯科コーディネーター(=Co)の育成

⇒「問題点」

ア、県対策本部での要望をいかに市町村や現場に伝えるか

⇒「課題点および提案」

ア、まずはしっかりと組織作りから検討

ア) 日歯、九地連、**県歯**、郡市、**大学ごとにCo配置**

イ) 日歯Co-九地連Co-**県歯統括Co-県歯Co-現地Co**

ウ) 日歯Co、九地連のCoは、被災県Coを補助する

エ) 県歯Coは、日歯Co研修会と別途の育成研修

イ、**研修時の形式の検討・・・机上訓練等の導入**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)-(5) 課題に対する事後検討など

○支援チーム以外の現地ボランティア歯科医師・歯科衛生士との活動調整

⇒「問題点」

- ア、**独自にボランティア活動し情報共有がない場合**
- イ、基本的には活動人員名簿はあらかじめ県に提出

⇒「課題点および提案」

- ア、日歯以外のチームについても、**窓口を統一**
- イ、**個人ボランティアに対する、「被災県歯科医師会への活動登録と活動報告」に関する周知**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)-(5) 課題に対する事後検討など

○事務局支援の必要性

⇒「問題点」

- ア、**被災県歯事務職員**が通常業務と一緒に災害対応

⇒「課題点および提案」

- ア、**事務局機能支援のガイドライン**作成
 - ア) JMATのように**ロジスティック担当者**を派遣
 - イ) **支援物資管理(搬入・搬出・移送・在庫管理等)**
 - ウ) **会員診療所可否情報のまとめ**
- イ、**九地連幹事県歯会が情報集約・発信**

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

4-3)-(5)課題に対する事後検討など

活動時のビブスの表記とその使用方法

⇒「問題点」

ア、活動時のビブスの表記とその使用方法

ア)各県独自の活動用ビブスを持参

イ)ピンクのビブスが認識しやすい？

⇒「課題点および提案」

ア、表記、使用方法とも全国统一

青字:課題 赤字:改善できた点 赤字:挑戦したが改善できなかった点

<まとめ>

- 1、福岡県歯はどう対応したのか？
- 2、その際に、熊本地震での九地連幹事県としての経験は活かされたのか？
- 3、熊本県歯から報告された課題を教訓として活かされたのか？
- 4、九地連メール協議会から報告された課題を教訓として活かされたのか？